

会 議 要 旨（意見要旨）

会 議 の 名 称	第 11 期 第 1 回新宿区男女共同参画推進会議
開 催 日 時	令和 6 年 8 月 7 日（水）午後 2 時～4 時
開 催 場 所	ウィズ新宿 3 階
議 長（会 長） 氏 名	早稲田大学文学学術院 教授 村田晶子委員
出席者（委員） 氏 名（人 数） 敬略称、順不同	神奈川大学法学部教授 井上匡子委員 労働政策研究・研修機構主任研究員 高見具広委員 公募区民 井土聡子委員 公募区民 盛十和子委員 マエダ綜建株式会社 前田恵子委員 株式会社チェックメイト 藤澤薫委員 区立小学校校長会 樺沢一彦委員 町会連合会 木村淳委員 民生委員・児童委員協議会 久田光子委員 区立小学校 PTA 連合会 望月美穂委員 公共施設利用団体（新宿区婦人団体協議会） 福田功委員 計 12 名
欠席者（委員） 氏 名（人 数）	公募区民 山村康子委員 区立中学校校長会 早川隆之委員 青少年育成委員会 山田信男委員 計 3 名
事務局の出席者	生田 淳（子ども家庭部長）、國井 淳子（男女共同参画課長）、 谷崎、三澤

発言者	内容
次第１ 開会	
次第２ 委嘱状交付	
次第３ 部長挨拶	
次第４ 委員自己紹介	
次第５ 事務局紹介	
次第６ 会長・副会長の選出	
	会長：村田晶子委員（委員より推薦） 副会長：井上匡子委員（会長より指名）
次第７ 議題 新宿区の男女共同参画施策について ①新宿区第四次男女共同参画推進計画について	
②新宿区第三次男女共同参画推進計画の進捗状況について	
事務局	《資料２ 新宿区第四次男女共同参画推進計画（本編）》 《資料３ 新宿区第四次男女共同参画推進計画（概要版）》 《資料４ 男女共同参画に関する区民および中学生の意識・実態調査報告書（本編）》 《資料５ ワーク・ライフ・バランスに関する企業および従業員の意識・実態調査報告書（本編）》 《資料６ 男女共同参画およびワーク・ライフ・バランスに関する区民・中学生・企業・従業員の意識・実態調査報告書（概要版）》 《資料７ 新宿区第三次男女共同参画推進計画進捗状況調査》に基づいて説明
井土委員	計画事業の達成状況説明の中で、ワーク・ライフ・バランス推進企業認定制度の認定件数が未達成という話が出たが、これは申請する企業数は一定数あるが認定の基準を満たす企業が少ないのか、申請自体が少ないのか、どちらか教えて欲しい。
事務局	そもそも申請を行う企業が少ない。
井上委員	今回の進捗状況確認からジェンダー主流化ということで、新しく各課の事業について「男女共同参画の視点で目指す効果」を確認した際の各課の反応はどのようなものであったか。
事務局	様々な部署から問合せがあった。「男女共同参画の視点で目指す効果」として８つの選択肢を用意して提示したが、自課の業務がどの選択肢に該当するかわからないといった声が多かった。問合せの度に選択肢の説明を当課の担当職員が行い、再度各課で検討を行ってもらおうよう努めた。
井上委員	素晴らしいと思います。自分たちの行う政策が何をしようとしているのかという視点が評価をする時の出発点になると思うので、まずはそこを頑張ってもらいたい。次は各課が自分たちの事業がどのぐらいの効果があるのかというような自己評価に進むといいと思うが、次期は様々な会議体等での議論を踏まえて進

	めていけると良いかと思う。 また、進捗確認の内容をお互いに確認できるような仕組みがあると、より良いと思う。そのように進めるため、男女共同参画課としての所感や所見といったものを出していくと良いのではないか。例えば、今回提示した「男女共同参画の視点で目指す効果」で特定の項目が少ない場合、所管課が考える効果と男女共同参画課が考える効果が異なる可能性がある。今回は初めての調査だったので回答が適切だったかも含め、次の時に調整が必要で、所管課と男女共同参画課でやり取りを重ねてほしい。 なお、数値目標についてはこの分析が全体となって方向性に繋がっているので良い分析だと思う。
③審議会等における委員の男女比率調査の結果について	
事務局	《資料8 審議会等における委員の男女比率状況調べ》に基づいて説明
村田委員	この調査は長く実施していると思うが、職務指定委員の数値になかなか変化が見られないのはかねてからの課題である。事務局からの説明で女性の管理職比率を上げる取組を行い、職務指定委員の女性比率改善に繋がればとあったが、現実的に向上できそうか。
事務局	人事課や男女共同参画課で方策を検討している。実現できれば少しずつでも意識改革等に繋がると考えている。
井上委員	トライしてアイデアを出していくのが重要なので、是非挑戦してほしい。 また可能であれば色々な所でシェアしながらモデルとなってほしい。他の区や県、大学や会社だってみんな同じことに困っていると思う。 女性の管理職を増やしましょうという、女性の管理職になった人の仕事が増えるといった状況があり、そこが嫌だと言われても言い返せないものがある。ぜひ良い取組があれば参考にしたい。
藤沢委員	素朴な疑問だが、区の職員は採用試験を受けて職員となり、昇進についても試験や推薦等があるという認識でよいか。その場合、管理職の割合自体に女性の意識の影響が出ている面もあるのではないか。
事務局	その認識で間違いない。管理職試験になるとそもそも受験をする人が少ない。ライフプラン等の影響があり、タイミングを逃してしまう人もいる。
盛委員	女性の管理職が増えることは大賛成だが、男性女性問わず、目上の人を立てるようなことや、基本的な接遇は大切にしたい。
村田委員	本日の議題はこれで終わりとする。
閉会	